

# インド洋上波高し

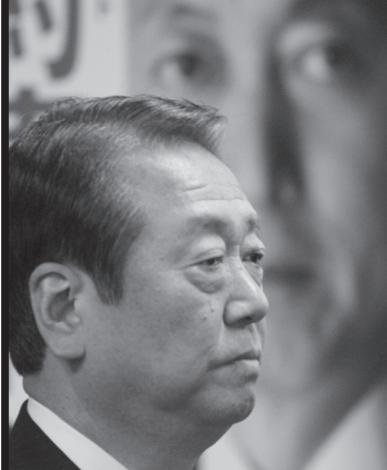
米中印の「争覇の場」に

- 3 連載(巻頭インタビュー)加藤 徹——中国は共産主義に「たわらない」特別レポート
- 6 早くも「レームダック化」のオバマ——「期だけの大統領」で終わりそう
- 12 崩壊する「ユーロ神話」
- 14 ■今年欧州「躍進の年」に
- 16 「スマートグリッド」巡る覇権争いが激化——次世代電気自動車のカギ
- 18 WORLD ●情報カプセル
- 22 タリバン「裏支援」強めるパキスタン——「軍政待望論」も渦巻く
- 24 「対イラン開戦」の条件整う
- 28 ■イスラエルの急襲はあるか
- 30 「中国離れ」するミャンマー軍政——米国の歩み寄りに応じて
- 32 「東」を向き始めたロシア——対日戦略に本腰入れる
- 34 中国「未成熟」市場経済の正念場
- 36 ■「資産バブル破綻」は回避できるか
- 36 中朝関係の「真相」
- 不信の「溝」は限りなく深い

インド洋での資源輸送は、中国とインドにとって今や生命線だ。覇権争いは死活的意味を持つ。鍵を握る米国は、インドとの連携を強化し、台頭する中国を封じ込める戦略だ。大国間のパワーゲームが始まっている。(6頁)



AP/AFL0



長崎県知事選の惨敗は、選挙が命綱の小沢から急速にその権威を奪い去った。今後は検査審査会と、党内の反発、国民世論が追い討ちをかける。焦点は、いまや力関係が逆転した鳩山が、小沢を斬れるかどうかだ。(48頁)

- 44 政治 ●情報カプセル
- 46 戦略なき岡田外交の「大罪」——「お坊ちゃん」にはどいたい無理
- 48 鳩山は小沢をいつ斬るか
- 選挙でも「神通力」に陰り
- 52 連載(政界スキヤン)政治家の「説得力」が劣化
- 54 第三極は「小党乱立」が関の山
- 小沢一郎の高笑いが聞こえる
- 56 「老害見本市」と成り果てた自民党
- 長崎県知事選勝利も追い風にならず
- 58 連載(罪深きは)この官僚寺崎明(総務省総務審議官)

- 60 現実味増す日本国「破綻」シナリオ
- 国債格付けの「逆転」を機に
- 62 「烏合の衆」と化すG7——中国に「ブー」というだけの存在に
- 64 トヨタを待ち受ける「賠償」地獄
- 北米市場の報復が始まった
- 67 連載(クローズアップ)もはや「燃えカス」経営者 稲盛和夫(日本航空会長兼最高経営責任者)
- 68 販売店のトヨタ離れが加速——章男極まず「怪しげな」親族業者
- 70 セブン&アイHDD
- 瓦解する「鈴木王朝」
- 74 経済 ●情報カプセル
- 78 JCOM争奪戦にみる住友商事の「狡猾」——「お粗末」KDDIがはめられた
- 80 新生とあおぞら「破談」の深層
- システム問題「が念を取りに
- 82 「無策」日銀総裁に退任の勧め——「東大経」卒を就けたのがそもそもの間違い
- 84 シリコンバレーにのめり込む孫正義——資金に飢えたITギャンブルのカモカ
- 86 パナソニック環境事業の本気度——復権のカギ握る燃料電池最新事情

戦略事業であるIT部門で2度の手痛い躓き。母体のイトヨーカ堂も赤字に転落、百貨店事業は泥沼にはまり込んだ。流通産業での覇権が終わった今、かつてのカリスマ経営者はいつになったら身を引くのか。(70頁)



凶悪犯罪の裁判でしばしば争点になる精神鑑定だが、実態は単なる「我田引水」。弁護側も検察も、裁判に勝つために鑑定を都合よく利用しているだけだ。科学とは無縁の「お手盛り」が判決を左右する異常な世界。(110頁)

- 98 社会・文化 ●情報カプセル
- 100 腐臭漂う労働組合「連合」——実力以上のさばる
- 102 早くも支離滅裂「消費者庁」行政——トヨタ・リコール問題には目を瞑るのに
- 104 「絶滅」間近のアルゼンチンタンゴ——ピアノの響きが聞こえる
- 106 「名医」は日本の外にいる
- 「メデイカルツーリズム」の最新線
- 108 地に墜ちた「特捜の権威」
- 小沢事件は「狂気の捜査」
- 日本のサンクチュアリ ●シリーズ 426
- 110 精神鑑定の世界
- これでも日本は法治国家か

2010.3月号 ●目次

連載

- 10 国際・国内人情報
- 27 Book Reviewing Globe
- 40 追想 バテレンの世紀 渡辺京二
- 42 あるコスモポリタンの憂国 紺野大介
- 51 西風—八木亜夫
- 59 交差点—読者の声・編集者の声
- 88 皇室の風—岩井克己
- 90 不運の名選手たち—中村計
- 92 むかし女ありけり—福本邦雄
- 94 本に遇う—河谷史夫
- 96 還りのいのち 還りの医療—米沢慧
- 114 マスコミ業界ばなし

表紙の図版は「レオナルド・ダ・ヴィンチ素描集(英国王室ウィンザー城所蔵)」(朝倉書店刊)から転載しています。

●表紙 AD / 現代美術社 ●校正 / 聚珍社 ●レイアウト / スタジオケッズ + 瀬戸章順 ●写真提供 / PANA 共同通信社 朝日新聞社 読売新聞社など